令和６年６月申請

様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	神戸医療未来大学
設置者名	学校法人　都築学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
健康スポーツ学部	健康スポーツコミュニケーション学科	夜・通信			14	14	13	
人間社会学部	健康スポーツコミュニケーション学科	夜・通信						
	未来社会学科	夜・通信			14	14	13	
	経営データビジネス学科	夜・通信			14	14	13	

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページで公表している。
(https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/experience-class.pdf)

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	神戸医療未来大学
設置者名	学校法人　都築学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにて法人役員名簿を公表している。 (https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/uploads/2024/06/9912649a8097fb2b91c6d18b08b8e411.pdf)

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社取締役	※	法人の運営体制のチェック機能
非常勤	名誉宮司	R5.4.1～R7.3.31	法人の運営体制のチェック機能
（備考） ※　評議員選出理事であり、理事としての任期はない。			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸医療未来大学
設置者名	学校法人　都築学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (1) カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づき、各学科、各資格養成課程から提出された次年度の教育課程の編成案を教務委員会で検討する。 (2) シラバスへの記載内容について FD 委員会で検討し、12 月までにシラバス作成要領を策定する。 (3) 次年度のカリキュラム編成及び科目担当教員を教務委員会で検討し、担当教員にシラバス作成を１月に依頼する。 (4) 担当教員はシラバス作成要領に基づき、1 月中にシラバス原稿を作成する。 (5) 作成されたシラバス原稿が適切であるか、2 月中に各学科、各資格養成課程、教学部で点検し、必要に応じて修正する。 (6) シラバス原稿の最終校正を 2 月末までに行い、新年度のオリエンテーション開始までに大学ホームページに掲載する。 (7) 担当教員は初回授業でシラバスの内容を説明し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項について学生への周知徹底を図る。	
授業計画書の公表方法	授業計画書(シラバス)は大学ホームページで公表しており、学生だけでなく一般に広く閲覧可能である。 (https://sun.kinwu.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010)
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

（1）授業科目の学修成果の評価方法

学修成果の評価の方法は、筆記試験、実技試験、レポート提出等による。担当教員は、授業計画書（シラバス）に記載した「評価基準・評価方法」に基づき学修成果を客観的かつ厳密に評価を認定している。学生の学修意欲、理解度を把握するため、担当教員は、小テスト・レポート・定期試験等を組み合わせ、多面的に評価を認定している。定期試験は原則として資料の持ち込みを禁止している。また各授業科目について、出席時間数が授業実施時間数の 3 分の 2（実習については 5 分の 4）に満たない場合は履修を認定しない（履修規程第 9 条第 5 項）。担当教員は試験終了後、成績報告書に評価点とともに、履修規程第 12 条に基づく評価区分を記入し教学部に提出する。

（2）成績評価の学生・保護者への通知

教学部は、履修科目の認定評価、単位取得状況、通算 GPA、学期ごとの GPA を記載した学生の成績原簿を作成する。成績はポータルサイト（Active Academy Advance）を通して学生に通知される。指導教員（クラス担任または卒業研究演習担当教員）および学生は成績の状況を随時確認することでき、学生指導に役立てている。あわせて保護者に対して、郵送により各期末の成績状況を通知している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

（1）成績評価の客観的な指標の設定

授業科目の評価（評点）については、秀（100～90）、優（89～80）、良（79～70）、可（69～60）、不可（59 以下）をもって表し、可以上を合格とする（履修規程第 12 条）。履修した授業科目における総合的な成績評価指標として、本学では GPA 制度を導入している。GPA は以下の式に基づき算出される（履修規程第 13 条）。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のグレードポイント}\times\text{その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した全科目の総科単位数}}$$

科目の成績評価に付されるグレードポイントは以下の通りである（認定科目、自由科目は GPA の計算対象外となる）。

評価	秀	優	良	可	不可	無効
グレードポイント	5.0	4.0	3.0	2.0	0.0	0.0

GPA の基準および算出方法等は、大学『学生便覧』に記載するとともに、オリエンテーション時に周知する。

（2）GPA の活用

通算の GPA および学期ごとの GPA は成績通知書に記載され、学生および保護者に通知される。GPA の低い学生に対しては、学期ごとの成績発表時等にクラス担任、卒業研究担当教員が面談指導を実施して学生の学修意欲の向上に努めている。GPA によって各学年の各科目の GPA 及び全科目の学生の成績分布状況を把握することができる。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学の『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで履修規程を公表している。 (https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/study-regulations.pdf)

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

(1) 卒業認定に関する方針

本学では、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とした4年間の教育課程を修了し、所定の単位数を取得したものに学位を授与する。各学科の卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりである。

（Ⅰ）健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1)建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけている。

(2)4 年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。

(3)さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

（Ⅱ）人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1)建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけている。

(2)4 年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。

(3)さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

（Ⅲ）人間社会学部未来社会学科

人間社会学部未来社会学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1)建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、ソーシャルワーカーとしての価値、知識、技術を学び、実践していくための科学的・専門的な力を身につけている。

(2)クライエントが直面している生活問題を発見し、クライエント自身が主体的に解決することをポートできる。

(3)課題の解決に向けて専門職ならびに他者との連携・協働ができ、地域の社会資源を活用した支援マネジメントができる。

（Ⅳ）人間社会学部経営データビジネス学科

人間社会学部経営データビジネス学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1)建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけているとともに、多様性を理解する能力も身につけている。

(2)営利・非営利の組織の中で多くの人々と協働しながら、目的達成に向けて、職業生活を効率的に営む能力を身につけている。

(3)社会の持続可能な発展のために、情報を収集し、加工・整理し、適切な情報として発信する能力を身につけている。

(2) 卒業要件

卒業の認定要件として、学科に4年以上在学し、教養科目は健康スポーツ学部健

<table>
<tr><td colspan="2">康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部未来社会学科　22 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　28 単位以上、専門科目は健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部未来社会学科　102 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　96 単位以上を修得しなければならないことが定められている。(学則第 18 条、第 43 条)
(3) 卒業の認定の実施手順
学生の卒業判定については、教学部が作成する「卒業判定資料」に基づき教務委員会で案を策定し、卒業要件を満たした学生については、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定したものに対して学位を授与する。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する
方針の公表方法</td><td>大学の『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで履修規程を公表している。
(https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/study-regulations.pdf)</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	神戸医療未来大学
設置者名	学校法人　都築学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/financial-statement_r05.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/financial-statement_r05.pdf
財産目録	https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/financial-statement_r05.pdf
事業報告書	https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/business-report_r05.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/financial-statement_r05.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページで公表している。
https://www.kinwu.ac.jp/about/information/)

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学ホームページで公表している。
(https://www.kinwu.ac.jp/about/information/)

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　人間社会学部・健康スポーツ学部
教育研究上の目的（公表方法：公表方法：『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで公表している。） https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/goal_2024.pdf
（概要） (1) 建学の精神と教育理念 本学は、「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神として掲げ、「青年は、次世代創造の源泉である。その個性を伸展し、人間と社会と地球に福祉的未来を実現する」ことを教育の理念としている。 (2) 本学の教育研究上の目的 本学は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に従い、広く知識を授けるとともに、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」に則り、人と環境に優しい福祉の心をもった人材を国際色豊かに育むことを目的とする。（学則第１条） さらに ・健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は、健康･スポーツ分野における必要な知識と実践方法を習得し、専門領域のスキルを高め、教育分野の指導者のみならず生活の質の維持･向上のために幅広い年齢層を対象とした適切な健康･運動の指導ができる人材を育成することを目的とする。 ・人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科は、健康･スポーツ分野における必要な知識と実践方法を習得し、専門領域のスキルを高め、教育分野の指導者のみならず生活の質の維持･向上のために幅広い年齢層を対象とした適切な健康･運動の指導ができる人材を育成することを目的とする。 ・人間社会学部未来社会学科は、社会に現存する諸問題に関心を高め、それらを社会学・社会福祉学・心理学等を中心とした社会科学の視座から理解・分析することにより、人と社会の多様性を理解するとともに、広く人と社会の未来を構想する能力を身につけた人材を育成することを目的とする。 ・人間社会学部経営データビジネス学科は、人間と社会の関係や人間と組織の関係に関わる知識、社会調査のスキルなどを活用することにより、さまざまな社会現象に潜む課題、営利・非営利の組織が抱える課題を発見・分析・解決する能力を身につけた人材を育成することを目的とする。（学則第４条）
卒業の認定に関する方針（公表方法：『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで公表している。）
（概要） (1) 卒業認定に関する方針 本学では、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とした４年間の教育課程を修了し、所定の単位数を取得したものに学位を授与する。各学科の卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりである。 （Ⅰ）健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科 健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。 (1)建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけている。 (2)４年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、そ

れを科学的に分析解析する能力を身につけている。
(3) さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

（Ⅱ）人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1) 建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけている。
(2) 4 年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。
(3) さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

（Ⅲ）人間社会学部未来社会学科

人間社会学部未来社会学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1) 建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、ソーシャルワーカーとしての価値、知識、技術を学び、実践していくための科学的・専門的な力を身につけている。
(2) クライエントが直面している生活問題を発見し、クライエント自身が主体的に解決することをポートできる。
(3) 課題の解決に向けて専門職ならびに他者との連携・協働ができ、地域の社会資源を活用した支援マネジメントができる。

（Ⅳ）人間社会学部経営データビジネス学科

人間社会学部経営データビジネス学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生において卒業を認定します。

(1) 建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけているとともに、多様性を理解する能力も身につけている。
(2) 営利・非営利の組織の中で多くの人々と協働しながら、目的達成に向けて、職業生活を効率的に営む能力を身につけている。
(3) 社会の持続可能な発展のために、情報を収集し、加工・整理し、適切な情報として発信する能力を身につけている。

(2) 卒業要件

卒業の認定要件として、学科に 4 年以上在学し、教養科目は健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部未来社会学科　22 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　28 単位以上、専門科目は健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部未来社会学科　102 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　96 単位以上を修得しなければならないことが定められている。（学則第 18 条、第 43 条）

(3) 卒業の認定の実施手順

学生の卒業判定については、教学部が作成する「卒業判定資料」に基づき教務委員会で案を策定し、卒業要件を満たした学生については、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定したものに対して学位を授与する。（学則第 43 条）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで公表している。）
（概要） 学科ごとに以下のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、カリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成及び実施している。 （Ⅰ）健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科 健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、健康・スポーツ分野における必要な知識と実践方法を修得し、専門領域のスキルを高め、教育分野の指導者のみならず、生活の質の維持・向上のために幅広い年齢層を対象とした適切な健康・運動の指導ができる人材を育成することを目的とします。この目的を達成するため、次の方針をもとにカリキュラムを編成し実践します。 ①社会人として国内および国際社会で活躍できる教養を身につける。 ②学問の基礎から専門的なこと体系的に学び、さまざまな人とのコミュニケーション力を身につける。 ③健康・スポーツ分野において幅広い知識と実践方法を習得し、さまざまな人とのコミュニケーション力と専門性の高い指導力と指導方法を身につける。 （Ⅱ）人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科 健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、健康・スポーツ分野における必要な知識と実践方法を修得し、専門領域のスキルを高め、教育分野の指導者のみならず、生活の質の維持・向上のために幅広い年齢層を対象とした適切な健康・運動の指導ができる人材を育成することを目的とします。この目的を達成するため、次の方針をもとにカリキュラムを編成し実践します。 ①社会人として国内および国際社会で活躍できる教養を身につける。 ②学問の基礎から専門的なこと体系的に学び、さまざまな人とのコミュニケーション力を身につける。 ③健康・スポーツ分野において幅広い知識と実践方法を習得し、さまざまな人とのコミュニケーション力と専門性の高い指導力と指導方法を身につける。 （Ⅲ）人間社会学部未来社会学科 人間社会学部未来社会学科では、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、社会・心理・福祉分野における必要な知識と実践方法を修得し、専門領域のスキルを高め、専門職養成のみならず、生活の質の維持・向上のために貢献できる人材を育成することを目的とします。この目的を達成するため、次の方針をもとにカリキュラムを編成し実践します。 ①教養科目を通して人間と社会を理解し、将来の福祉専門職として必要な資質と能力を身につける。 ②相談支援に必要な制度と実践方法を学ぶとともに、それを実践するためのコミュニケーションスキルとマインドを身につける。 ③個人と地域の生活問題を発見し、社会的に解決するために不可欠なアセスメント能力やマネジメント能力などを身につける。 （Ⅳ）人間社会学部経営データビジネス学科 人間社会学部経営データビジネス学科は、建学の精神および学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、人間と社会の関係や人間と組織の関係に関わる知識、社会調査のスキルなどを活用することにより、さまざまな社会現象に潜む課題、営利・非営利の組織が抱える課題を発見・分析・解決する能力を身につけた人材を育成することを目的とします。この目的を達成するため、次の方針をもとにカリキュラムを編成し実践します。 ①教養科目および学科専門科目を通じて、グローカルな視点で人間、組織、社会を理解し、考察するための教養と知識を身につける。 ②社会学・経営学及びそれらの関連科目の理論とビジネス実務の実践方法を学び、持続可能な社会の市民・職業人にふさわしい洞察力、論理的思考力、ビジネススキルを身

につける。 ③社会調査及びデータサイエンスを体系的に学び、課題解決や価値創造につながるデータ収集力、データ分析力、データ活用力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学『学生便覧』に記載するとともに、大学ホームページで公表している。） https://www.kinwu.ac.jp/__wp/wp-content/themes/kobeiryoumirai/assets/files/info/admission-policy.pdf
（概要） 本学が求める入学者は、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、人間社会の発展に関心をもち、自分の能力を活かし、主体的に学ぶ意欲と自己の成長を目指す人物である。学科ごとにアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）を定め、アドミッションポリシーに則り入学者を受け入れている。 （Ⅰ）健康スポーツコミュニケーション学科 健康スポーツコミュニケーション学科は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、人間と社会にかかわる課題に関心が強く、 健康とスポーツ分野を主体的・自律的に学び、人との関わりやコミュニケーションを尊重し実践していくための学修に取り組むことのできる人を求めます。 （Ⅱ）未来社会学科 未来社会学科は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、社会に存在する諸問題に関心を高め、それらを社会学・社会福祉学・心理学等を中心とした視点から理解・分析することにより、人と社会の多様性を理解するとともに、広く人と社会の未来を構想する能力を身につけることを目的とした人材を求めます。 （Ⅲ）経営データビジネス学科 経営データビジネス学科は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、組織や社会の課題解決・目的実現のために、経営学、データサイエンス、ビジネス学等を主体的・自律的に学ぶことのできる人を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページで公表している。 (https://www.kinwu.ac.jp/about/information/) 2. 教育研究上の基本組織に関すること

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	4 人	－					4 人
健康スポーツ学部（人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科を含む	－	9 人	3 人	6 人	1 人	0 人	19 人
人間社会学部	－	20 人	6 人	6 人	0 人	0 人	32 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
3 人	51 人	54 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：大学ホームページで公表している。 (https://www.kinwu.ac.jp/research/teacher/)

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

FD 委員会を中心に継続的な FD 活動を実践することにより、教員の資質の向上を図っている。
令和 4 年度の主な活動は以下のとおりである。
＜授業改善のためのアンケートの実施＞
　授業の改善を目的として、前期と後期の 2 回にわたって学生による授業改善アンケートを実施した。実施方法は、授業支援システム「アクティブアカデミー」を利用したオンライン形式である。教員には、各授業内でアンケートを実施するための時間をとっていただくように協力を得た。授業改善アンケートの集計結果は、アクティブアカデミーを通じて各教員へ報告した。また、姫路キャンパスでは教学課横、大阪天王寺キャンパスでは図書・情報センターにて、情報共有とフィードバックを兼ねて集計結果一覧を公表した。
＜教員相互の授業参観における自己評価と他者評価の方法＞
　当年度はオンライン授業から対面授業へと切り替えた。全教員が授業参観をするように、かつ授業を参観されるように設定した。参観後には授業に関するフィードバックを行い（姫路キャンパスは Google フォームを利用、大阪天王寺キャンパスは評価票を利用）、自らの授業について内省するしくみを採った。
＜学内研修会の実施、並びに、学外 FD 研修会の参加及び学内伝達講習の実施＞
　本学における学務、教育及び研究活動を充実するために、学内 FD 研修会を開催した。前期は「ルーブリックとは？ルーブリックを作成・活用しよう！」をテーマに、講座とワークを実施した。後期は「学習意欲を引き出す授業運営 ～ARCS モデルの理解と検討～」（講座＆ワーク）を開催した。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
健康スポーツ学部	180 人	83 人	46.1%	180 人	83 人	46.1%	人	人
人間社会学部	220 人	281 人	127.7%	1,420 人	787 人	55.4%	人	6 人
合計	400 人	364 人	91.0%	1,600 人	870 人	54.3%	人	6 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
健康スポーツ学部	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
人間社会学部	268 人 (100%)	2 人 (0.7%)	210 人 (78.4%)	56 人 (20.9%)
合計	268 人 (100%)	2 人 (0.7%)	210 人 (78.4%)	56 人 (20.9%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

概要）
(1) カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づき、各学科、各資格養成課程から提出された次年度の教育課程の編成案を教務委員会で検討する。
(2) シラバスへの記載内容について FD 委員会で検討し、12 月までにシラバス作成要領を策定する。
(3) 次年度のカリキュラム編成及び科目担当教員を教務委員会で検討し、担当教員にシラバス作成を 1 月に依頼する。
(4) 担当教員はシラバス作成要領に基づき、1 月中にシラバス原稿を作成する。
(5) 作成されたシラバス原稿が適切であるか、2 月中に各学科、各資格養成課程、教学部で点検し、必要に応じて修正する。
(6) シラバス原稿の最終校正を 2 月末までに行い、新年度のオリエンテーション開始までに大学ホームページに掲載する。
(7) 担当教員は初回授業でシラバスの内容を説明し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項について学生への周知徹底を図る。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
＜学修の成果の評価に係る取組の概要＞
(1) 授業科目の学修成果の評価方法
学修成果の評価の方法は、筆記試験、実技試験、レポート提出等による。担当教員は、授業計画書（シラバス）に記載した「評価基準・評価方法」に基づき学修成果の評価認定を客観的かつ厳密に行っている。学生の学修意欲、理解度を把握するため、担当教員は、小テスト・レポート・定期試験等を組み合わせ、多面的に評価を認定している。定期試験は原則として資料の持ち込みを禁止している。また各授業科目について、出席時間数が授業実施時間数の 3 分の 2（実習については 5 分の 4）に満たない場合は履修を認定しない（履修規程第 9 条第 5 項）。担当教員は試験終了後、成績報告書に評価点とともに、履修規程第 12 条に基づく評価区分を記入し教学部に提出する。
(2) 成績評価の学生・保護者への通知
教学部は、履修科目の認定評価、単位取得状況、通算 GPA、学期ごとの GPA を記載した学生の成績原簿を作成する。成績はポータルサイト（Active Academy Advance）を通して学生に通知される。指導教員（クラス担任または卒業研究演習担当教員）および学生は成績の状況を随時確認することでき、学生指導に役立てている。あわせて保護者に対して、郵送により各期末の成績状況を通知している。

＜卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する取組の概要＞
(1) 卒業認定に関する方針
本学では、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を基本理念とした 4 年間の教育課程を修了し、所定の単位数を取得したものに学位を授与する。各学科の卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりである。
（Ⅰ）健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科
①建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、 生かす力を身につけている。
②4 年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。
③さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。
（Ⅱ）人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科
①建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、 生かす

力を身につけている。
②4 年にわたる教養および学科専門科目の学修を通して様々な課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。
③さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

（Ⅲ）人間社会学部未来社会学科
①建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、ソーシャルワーカーとしての価値、知識、技術を学び、実践していくための科学的・専門的な力を身につけている。
②クライエントが直面している生活問題を発見し、クライエント自身が主体的に解決することをポートできる。
③課題の解決に向けて専門職ならびに他者との連携・協働ができ、地域の社会資源を活用した支援マネジメントができる。

（Ⅳ）人間社会学部経営データビジネス学科
①建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけているとともに、多様性を理解する能力も身につけている。
②営利・非営利の組織の中で多くの人々と協働しながら、目的達成に向けて、職業生活を効率的に営む能力を身につけている。
③社会の持続可能な発展のために、情報を収集し、加工・整理し、適切な情報として発信する能力を身につけている。

(2) 卒業要件
卒業の認定要件として、学科に 4 年以上在学し、教養科目は健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科　32 単位以上、人間社会学部未来社会学科　22 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　28 単位以上、専門科目は健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科　92 単位以上、人間社会学部未来社会学科　102 単位以上、人間社会学部経営データビジネス学科　96 単位以上を修得しなければならないことが定められている。（学則第 18 条、第 43 条）

(3) 卒業の認定の実施手順
学生の卒業判定については、教学部が作成する「卒業判定資料」に基づき教務委員会で案を策定し、卒業要件を満たした学生については、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定したものに対して学位を授与する。（学則第 43 条）

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
健康スポーツ学部	健康スポーツコミュニケーション学科	124 単位	有・無	48 単位
人間社会学部	健康スポーツコミュニケーション学科	124 単位	有・無	48 単位
	未来社会学科	124 単位	有・無	48 単位
	経営データビジネス学科	124 単位	有・無	48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：『学生便覧』に記載している。 修学指導、奨学制度、実習条件、および表彰などに活用されます。		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページで公表している。
(https://www.kinwu.ac.jp/campus-life/Facility/)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
健康スポーツ学部	健康スポーツコミュニケーション学科	840,000 円	200,000 円	360,000 円	
人間社会学部	健康スポーツコミュニケーション学科				R6.4 より募集停止
	未来社会学科	750,000 円	200,000 円	330,000 円	
	経営データビジネス学科	750,000 円	200,000 円	330,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 前後期のガイダンス時において、履修の方法、授業の受け方、試験の受け方、資格の取得の方法等を学生に説明している。なお、令和３年度は対面によるオリエンテーションは実施せず、すべてオンラインによるオリエンテーションを実施した。 履修登録時には、クラス担任、卒業研究演習担当教員が指導にあたっている。また授業出席状況や各部署からの学生情報をもとに、クラス担任、卒業研究演習担当教員が随時学生の就学指導、支援にあたっている。また各種国家資格受験や資格取得、教員免許の取得に係る課外講座を設置している。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） １年次、２年次においては、キャリアデザインⅠ、Ⅱの中で、卒業生の講話や企業の話を聞く機会を設け支援をしている。３年次、４年次では、就職ガイダンス、就職セミナーにおいて、自己分析、業界研究をはじめ履歴書の書き方や面接対策を行っている。また、学内就職フェアも開催している。（令和３年度については、新型コロナウイルス感染拡大により学内就職フェアはオンラインにより実施した。）
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生相談室を設置。相談員は外部心理カウンセラーほか学内の心理学系教員を中心に配置している。コロナ禍で遠隔授業等、環境の変化によるストレスを抱える学生に対し、対面相談以外に電話による相談も学生相談室で行っている。また、相談員だけでなく、クラス担任、卒業研究演習担当教員も適時、個別面談等を行い、学生の新進面のサポートを行っている。健康管理については、健康相談、定期健康診断を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：専任教員の教育研究等の状況や実績については大学ホームページ(https://www.kinwu.ac.jp/research/teacher/)で公表している。また本学の研究紀要『神戸医療未来大学紀要』への掲載論文は大学ホームページ(https://kinwu.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=2&q=87)で公表している。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108963
学校名	神戸医療未来大学
設置者名	学校法人　都築学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		98人	96人	100人
内訳	第Ⅰ区分	63人	59人	
	第Ⅱ区分	30人	29人	
	第Ⅲ区分	5人	8人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				100人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	0人		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	6人		
計	6人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
３月以上の停学	0人
年間計	1人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	6人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	14人		
計	15人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。